

2007年9月吉日

全国湿地保全関係者 各位

日本湿地ネットワーク  
WWF ジャパン

### 第1回日韓 NGO 湿地フォーラム開催のご案内

下記要領で、第1回日韓 NGO 湿地フォーラムを開催します。来年10月に韓国で開催されるラムサール条約第10回締約国会議と直前の NGO 会議において、日韓 NGO が東アジアにおける湿地保全の問題状況を明らかにし、今後の湿地保全の取組の促進をアピールできるか否かは、以後10年以上の東アジアにおける湿地保全の方向性を左右していくといっても過言ではありません。このフォーラムを全国各地で湿地保全に取り組んでいる皆様の力を合わせていく第一歩とするために、ぜひご参加頂きますようお願い申し上げます。参加ご希望の方は、別紙参加申込書にご記入頂き、日本湿地ネットワーク伊藤昌尚宛、メール [ito-itoh★s2.dion.ne.jp](mailto:ito-itoh★s2.dion.ne.jp) (←★印は@に入れ替えて入力：スパムメール対策) またはファックス (TEL・FAX048-845-7177) で9月28日までにお申し込み下さい。また、参加費用の合計金額を郵便振替口座 (口座番号：00170-8-190060 口座名：日本湿地ネットワーク) に10月3日までにお振り込み下さい。

また、14日フォーラム終了後、10月15、16日にかけて、韓国からのゲストと共に霞ヶ浦、足尾、紅葉の奥日光、渡良瀬遊水池を回るエクスカージョンを行いますので、エクスカージョン参加ご希望の方も合わせてお申し込み願います。但し、バスの定員の関係で先着10名で締め切らせていただきます。

#### 記

#### 主催

日本湿地ネットワーク (JAWAN)  
WWF ジャパン

#### 日程

2007年10月12～14日

#### 会場 (宿泊場所も同じ)

YMCAアジア青少年センター  
東京都千代田区猿樂町2-5-5  
URL <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp>  
TEL(03)3233-0611 FAX(03)3233-0633

#### 目的

ラムサール条約は、NGOの湿地保全の取り組みから生まれた国際条約であり、3年ごとに開催される締約国会議 (COP) もNGOの活発な活動による成果を取り入れながら、賢明な利用を中心とした湿地保全の方法論を深化させてきた。しかしながら、2

005年のカンパラのCOP9では、恒例の本会議前のNGO会議も実質的には開催されず、本会議中はNGOが集る場所の確保さえ容易でなかったなど、COPにおけるNGOに対する位置づけが大きく後退してしまった。

2008年10月28日～11月4日に韓国慶尚南道昌原市で開催される第10回ラムサール条約締約国会議（COP10）と直前の10月26、27日に予定されているNGO会議において、世界のNGOが、改めてラムサール条約に基づく湿地保全においてNGOの活動の重要性をアピールし、COPにおける正当な位置づけを獲得できなければ、ラムサール条約が草の根のNGOから大きく距離をおいたものになってしまうことが懸念される。

また、東アジアでは、50年前ころまで続いていた、持続性を持った伝統的な農業、漁業が湿地の賢明な利用を実践し生物多様性を維持していたが、この約50年の急速な近代化によって伝統的な農漁業は変質し、資源消費型、非循環型の持続不可能なものに変わり、湿地環境の劣化、生物多様性の喪失を招来したばかりでなく、農漁業自体が放棄されて湿地が開発の対象となり、湿地破壊、消失が続けられ、諫早、セマングムなど今でも湿地の大規模破壊を止めることができない。東アジアでかつて行われていた湿地の賢明な利用を現代に甦らせることができるかどうかは、同様な経過を辿って伝統的な賢明な利用が失われてきた西アジア、アフリカ、中南米等の地域、ひいては世界全体の賢明な利用の実現の成否の鍵となるということができ、COP10においては、東アジアの伝統的な湿地の賢明な利用の蘇生の方法論を大きく取り上げる必要がある。

1993年の釧路のCOP5以来15年ぶりに東アジアで開催される韓国でのCOP10において、ラムサール条約におけるNGOの再位置づけと、東アジアの伝統的な湿地の賢明な利用の蘇生ということで大きな成果を上げていくためには、日本と韓国の湿地保全のNGOの代表が一堂に会し、両国における湿地の賢明な利用の歴史的変遷と現在における問題状況、課題を明らかにして、それが国際的な湿地保全条約であるラムサール条約の中でどのような意味を持ち、これからのラムサール条約に基づく湿地保全にどれだけ役立っていく可能性があるのか認識を共通にして、さらにCOP10本会議及び本会議前のNGO会議において両国NGOが果たすべき役割を検討する機会を持つことが必須である。

そのような趣旨でCOP10の1年前の時期に第1回、COP10直前の2008年9月ころに第2回の会議を開催し、また、2010年には名古屋で生物多様性条約のCOP10が開催されることから、引き続き東アジアの湿地保全を進め生物多様性を確保していくために2008年以降も定期的に開催して日韓NGOの連携を強化するとともに、さらに中国、東南アジアのNGOとの連携を模索していきたい。

.....

## プログラム（発表者、発表内容、時間については変更することがあります）

10月12日 「日韓における湿地の現状と湿地政策を検証する」

進行：堀

12:30-12:40 趣旨説明：堀良一（10分）

12:40-14:40 両国の典型事例にみるそれぞれの国の公共事業による湿地破壊の問題

諫早湾干拓の事例：菅波完（60分）

セマングムの事例：韓国側報告者（60分）

14:40-15:00 休憩

15:00-18:30 パネルディスカッション(途中、17時から20分の休憩)

進行：堀良一

テーマ：公共事業による湿地破壊の両国の問題点とその克服の方向

パネリスト：花輪伸一（総合パネリスト）  
竹下幹夫（中海）  
前川盛治（泡瀬）  
杉沢拓男（釧路）  
韓国側から2名  
会場発言予定者：辻淳夫（藤前）  
牛野くみ子（三番瀬）  
松本悟（和白）  
笹木智恵子（中池見）

10月13日 「東アジアにおける湿地の賢明な利用の再構築をめざして」

午前進行：浅野

- 9:00－9:10 趣旨説明及び問題提起：浅野（10分）  
伝統的農漁業によって実現していた湿地の賢明な利用とその喪失
- 9:10－9:50 生物多様性を利用した稲作「ふゆみずたんぼ」の挑戦—蕪栗沼から全国へ：呉地正行、岩渕成紀（40分）
- 9:50－10:10 東アジアにおける環境創造型稲作の展開をめざして：稲葉光國（20分）
- 10:10－10:40 韓国における農業と湿地保全：キム・キョンウォン（30分）
- 10:40－10:55 休憩
- 10:55－11:30 持続可能な沿岸漁業に不可欠な干潟—その機能と保全—：佐々木克之（35分）
- 11:30－12:00 韓国における漁業と湿地保全：韓国側報告者（30分）
- 12:00－12:45 討論
- 12:45－13:30 昼休み

午後進行：花輪

- 13:30－13:40 趣旨説明及び問題提起：花輪伸一（10分）  
すべての湿地を賢明に利用していくために—地域・流域・再生・調査—
- 13:40－14:15 社会システムの転換をめざした地域活動による湿地保全と再生—霞ヶ浦—：飯島博（35分）
- 14:15－14:40 山・川・海を繋ぐ流域一貫の発想—伊勢・三河湾—：辻淳夫（25分）
- 14:40－15:15 河川整備計画は湿地の賢明な利用を実現できるのか：姫野雅義（35分）
- 15:15－15:55 韓国における流域保全の実情と問題点：韓国側報告者（40分）
- 15:55－16:10 休憩
- 15:10－16:40 ほぼ100%が埋め立てられた大阪湾での湿地再生の試み—南港野鳥公園の24年—：高田博（30分）
- 16:40－17:05 モニタリングが支える湿地の賢明な利用：柏木実（25分）
- 17:05－17:30 黄海沿岸の保全と賢明な利用：東梅貞義（25分）
- 17:30－18:00 韓国におけるモニタリング調査の現状：韓国側報告者（30分）
- 18:00－18:15 休憩
- 18:15－19:00 討論
- 19:30－21:00 懇親会

10月14日 「NGOはCOP10で何をなすべきか」

全体司会：菅波完（午前）

9:00-10:00 基調講演「ラムサール条約の到達点」：小林聡史（60分）

10:00-10:30 日本におけるCEPAの取り組みと問題点：伊藤よしの（30分）

10:30-11:00 韓国におけるCEPAの取り組みと問題点：ソニョン（30分）

11:00-11:20 休憩

11:20-11:50 なぜ条約湿地登録をめざすのかー渡良瀬遊水池：高松健比古（30分）

11:50-12:20 韓国における湿地登録の現状と問題点：韓国側報告者（30分）

12:20-13:20 昼食

13:20-17:00 徹底討論「COP10までの戦略と行動計画」

進行：菅波完・堀良一

過去のCOPでNGOが果たした役割

日本からのCOP10への参加、韓国側受け入れについて

NGO会議の持ち方、テーマ、NGO会議の決議によるアピール等  
諫早・セマングムの再生を目指す活動をどのように展開するか

「東アジアでの湿地の賢明な利用の再構築をめざす決議」を本会議で  
採択させる動きかけをどうするか

ラムサールCOP10と生物多様性COP10をどう繋いでいくか

17:00-17:10 日韓NGO湿地フォーラム宣言採択

## エクスカージョン

14日

18:30 上野発常磐線特急フレッシュひたち51号

19:14 土浦着

19:26 土浦発普通電車水戸行

19:37 高浜着、割烹旅館いづみ荘（TEL0299-26-3232）泊

15日

8:00 いづみ荘発

8:30-11:30 霞ヶ浦

バス内昼食

14:30-16:00 足尾三川ダム

16:30-17:15 中国殉難烈士慰霊塔、朝鮮労働者慰霊碑

18:30 湯元温泉着、奥日光高原ホテル（TEL0288-62-2121）泊

16日

8:00 奥日光高原ホテル発

8:30-9:30 戦場ヶ原

10:00-10:30 華厳の滝

バス内昼食

12:30-15:00 渡良瀬遊水池

16:01 小山駅発東北新幹線MAXやまびこ216号（日本側参加者は小山駅で解散）

16:44 東京着

17:30 羽田着